

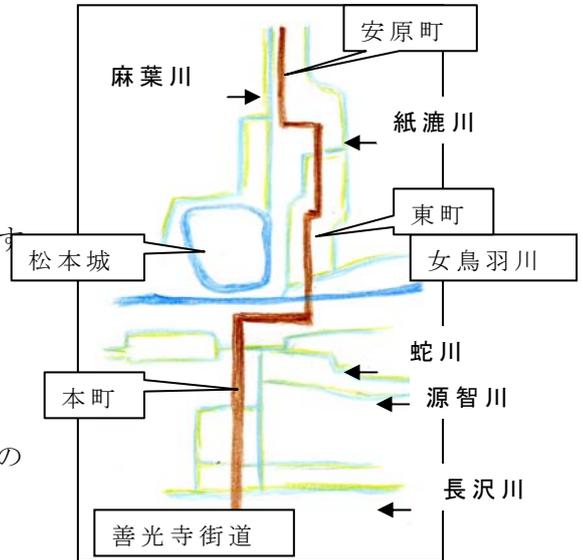
蛇川と源智川（榛の木川）

南深志の湧水地帯を歩くと、各所に湧き出す井戸の水音が快く響き、道の脇を流れる水とその川面の美しさに目を見張らされます。澄んだ豊富な水と水中でゆらゆらとゆれる水草は、心も和ませてくれます。

1 城下の小河川

松本には大門沢川、女鳥羽川、薄川、田川といった大きな川が流れています。また、それとは趣を異にする小河川も城下を流れていました。主なものを北からあげてみると、麻葉川・紙漉川・蛇川・源智川（榛の木川）・長沢川などです。麻葉川・紙漉川は北から南へ流れ、蛇川・源智川（榛の木川）・長沢川は東から西へと流れています。

現在は上下水道が完備したため、小河川が日常の生活と深く結びついていることを忘れがちですが、つい3・4世代くらい前までは、これらの小河川が人々の生活を維持するために大事な役割を果たしていました。



松本城下の小河川

(享保十三年秋改松本城下絵図より作成 流路は各種地図により多少の異なりがある)

2 蛇川



蛇川の上流部分(中央3丁目13番あたり)
小池町に出る蛇川(中央2丁目2番あたり)

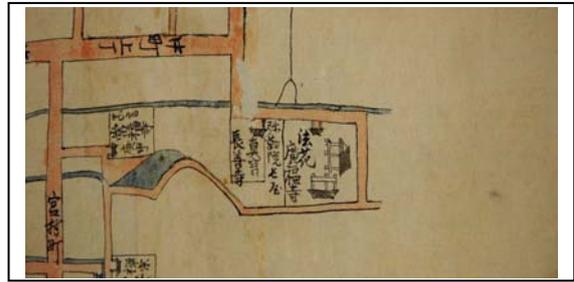
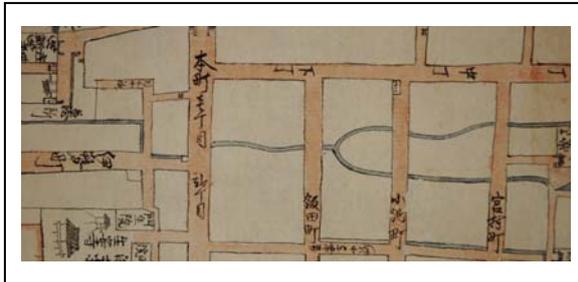
中町から飯田町を南に進むと藤森病院の横に東西に流れる小川を見ることができます。さらにひとつ東の小池町の通りでは徳武竹材店の店脇にも流れが顔を出しています。この川が蛇川です。街中では建物の脇を流れていくので途切れ途切れにしか眺められません。上流へとたどっていくと東町のあたりから川幅もやや広がり、流れの全貌を眺めることができるようになります。さらにたどると流路は二手にわかれ、松本市美術館あたりと松本市勤労者福祉センターあたりからの水を集めて流れてきている様子を見ることができます。

下流は繁華街に流れ込むため、確認が難しくなりますが、伊勢町を流れ下っています。

この流れを絵図でみると、本町を越え、伊勢町へと流れ、伊勢町の東口から町裏へ回されて、西方へ流れ下っています。後掲の絵図では伊勢町の北側の建物裏に水路が描かれていますが、天保の城下絵図では、伊勢町の南側の町裏へも水路が回っていますので、伊勢町の東で南北の2つの水路に分けられ流れていたようです。これは生活用水として

計画的に流路が設定されたことを物語っています。湧水が水源でしたから、水質のよさはもちろんのこと、水量が大幅に増減することもなく、洪水を起こす心配もありません。安定した河川として生活水路としては最適だったと思われます。

享保8年の宮村町絵図（河辺文書）をみると、川幅は5尺（約1.5m）から7尺とあり、現在の川幅より多少広めでした。



蛇川の流れ（左：下流部分 右：上流部分 「文化5から天保6頃松本城下絵図」）

3 源智川（榛の木川）

源智の井戸の豊かな水は、井戸からこぼれると東の水路に落ち、高砂通り（源智小路、生安寺小路）の北側を西へ向かって流れていきます。ここは道沿いにあるため、現在もその流路を確認しやすく、街中を流れる水面を楽しむことができます。

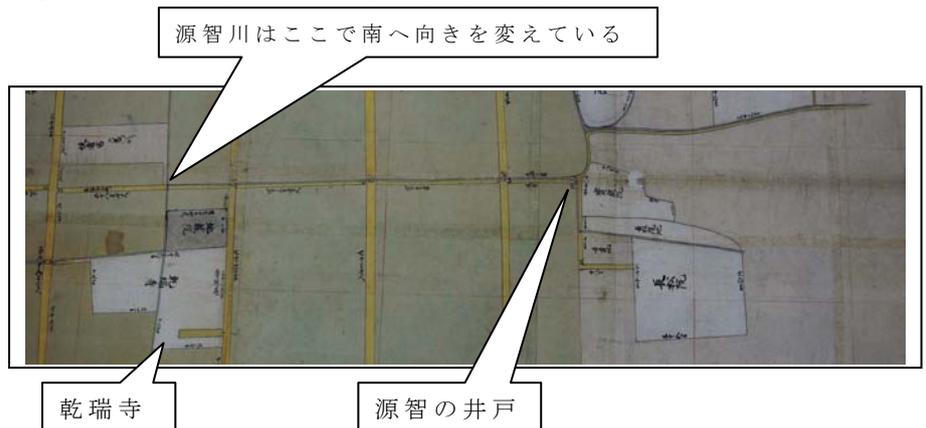
絵図を見ると、源智の井戸の脇へ宝泉寺（今の瑞松寺のあたり）横を通って流れてくる水路があり、そこへ源智の井戸の水が落ち込んで、水量を増やして流れていったようです。この流れの上流をたどると、現在は個人のお宅の敷地内や敷地の脇を流れて、源池の水源地のほうへ向かいます。やはりこの川も源池の湧水地帯をその源にした川です。

水野氏時代ですが、河辺文書のなかにこの水路に関して寅の十月に町奉行からだされた達しがあります。慶安元年に創設された乾瑞寺（日本郵便公社松本支店の東）がでてくるので、寅年は慶安3年かと思われますが、この年に源智川の水を乾瑞寺の用水に使うことが計画されました。そのおりの文書です（河辺文書）。

飯田町・小池町・宮村町の源智通より南の家は雨水や汚水を北の源智川へ流し込んでいる。このたび乾瑞寺の用水に源智川の水を使うことにしたので、今後は源智通りの南側に新たに小汐を堀り、そこへ汚水を流すようにする。その流末は本町の東側で南に向けて乾瑞寺の境内を通し、南北汐へ流し入れるようにする。源智川の川筋は昼夜とも悪水や塵芥を捨ててはならない。もし捨てるものがあれば、罰を申し付ける。このことを下々にまでいい聞かせよ。付け加えるが、源智川は宮村町から本町まで毎月2回川さらいをするように。「川係り同心」に見回りをさせるので、そのように心得ておくこと。以上のことをよくよく守るようにせよ。

これに対して、飯田町・小池町・宮村町の町役人が、この仰せ付けを一軒一軒家内・子ども・下々までつぶさにもうし聞かせますと請書を出しています。

清浄さを維持するために、悪水は排水用の水路を別に新設して流すことにし、住人には月2回の川掃除を命じています。さらに「川係り同心」を巡回させて、維持管理をおこなっています。水野氏の代でも、源智の井戸からの水は大事にされていたことがわかります。



源智川の流路（「享保十三年秋改 松本城下絵図」）

源智川の流れ（中央2丁目あたり）

現在の源智川は、高砂通りの北側を西へ流れ、本町へ出る手前で道を横切って向きをかえ南へ流れています。上記の文書と合致しています。

この川の幅は享保8年の絵図では5尺でした。

4 城下町の景観として生かす

松本城下町の各所にある井戸には、毎日たくさんの方がおいしい水を汲みにきます。また観光客が井戸めぐりを楽しむ姿も見られます。市の事業として平成の井戸も各所に設置され、昔からの井戸とともに城下町の風情を豊かにしています。

ゆったりとした水の流れは人々の心を和ませます。街中の井戸が整えられてきた現在、次はこの道端を流れる小河川の景観をどのように生かしていくかを工夫することが課題になると思われます。道路幅の維持や車の進入路確保やごみ・草取りといった維持管理や安全面で克服しなくてはいけないことはたくさんありますが、コンクリートや鉄板や物置き場として覆われてしまった部分を開け、豊かな水の流れを堪能する場所を創り出していくと、城下町松本、清流の街松本がよりアピールできていくのではないのでしょうか。